

「計画」

菩提寺北小学校

令和8年度 我が校の学力向上策

【県目標】第三期学力向上滋養プラン 夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学力を高める。
【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ ○発達の段階を踏まえた言語活動の充実 ○1人1台端末等の効果的な活用 ○自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】 ○楽しくて力のつく湖南省教育～子どもの育つ力を信じ、夢と志を育て、「生きる力の根っこ」を太くする～
--

【学校の目標】 ○豊かな心と生涯学び続ける力を持ち、たくましく生きる人間の育成
--

【現状と課題】 ○視点1 (1) 校内研究の取組を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業改善は着実に進んできた。一方で、「友だちや先生と話し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりできているか」というアンケート項目において、否定的回答が26%であったことから、対話を通して学びの変容を自覚する子どもの姿には依然として差が見られる。とくに「学びを深める姿」については、今後、子どもと教職員、さらに教職員同士で共通理解を図る必要がある。 (2) 1人1台端末の活用については、子どもが自己の考えを形成する場面や、対話を通して学びを深める場面での効果的な活用が授業研究会を通して共有されている。また、どの学級においても、問題解決的な学習や探究活動において、子どもが自らの興味・関心に応じて学びを進められるよう、端末を適切に活用できている。 ○視点2 日々の授業において、子ども同士の対話を通して学びを進める授業づくりが定着してきた。また、子どもが安心して自分の考えを伝えられるよう、「学びを支え合う集団づくり」の視点から、各学級の手立てを共有することができた。どの学級でも対話の習慣が根付きつつあり、昨年度の校内研究を通して、学級経営が授業の土台であることを改めて認識することができた。 ○視点3 本校児童の現状として、学力の二極化が見られることを教職員全体で共有している。そこでR7度より、基礎学力の定着をめざしてAIドリルを導入した。子どもが自己の課題に応じて学習計画を立てたり、問題を選択したりすることで、自ら学びを調整する力を育成し、家庭学習の充実を図りたい。また、今年度は「家庭学習の手引き」を発行し、全校で家庭学習の質の向上に取り組む。
--

取組事項および評価指標
※評価指標には、目標値を記入してください。
(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり	
取組事項	評価指標
①「4つの対話(子どもどうし、教材と、子どもと教師、自己内対話)により学びの変容を自覚できる授業づくり」をもとに授業改善を行うことで、対話を通して、自己の学びの変容を自覚できる子どもの姿を目指す。 ②学力向上・ICT部会を中心に、「オクリンクプラス」の効果的な活用について検討し、各学年の実践につなげることで、問題解決的な学習や探究活動に取り組むことができる子どもの姿を目指す。	①児童用アンケートにおいて「学習を通して、“たしかに” “なるほど” “そういうことか” “すっきり” という学びができています」の項目で肯定的な回答80%以上を目指す。 ②児童用アンケートにおいて「タブレットを使って、調べ学習をしたり、自分の考えをまとめたりすることができている」の項目で肯定的な回答80%以上を目指す。

【視点2】学びを支え合う集団づくり	
取組事項	評価指標
①「授業の善北スタイル」をもとにした授業づくりを共通実践事項として、自分の考えを伝える経験や友だちの考えを受け入れる経験を積むことで、学びを支え合う集団づくりを目指す。	①児童用アンケートにおいて「友だちと一緒に学習することのよさを感じている」の項目で肯定的な回答80%以上を目指す。

【視点3】協働して取り組む学校づくり	
取組事項	評価指標
①学力向上・ICT部会を中心に、『家庭学習の手引き』の効果的な活用やAIドリルの効果的な活用について検討し、子どもたちが自己の課題に応じて、自らの学習を調整できる姿を目指し、基礎学力の向上を図る。	①教師用アンケートにおいて「『家庭学習の手引き』をもとに、子どもたちが効果的に家庭学習に取り組むことができるように手立てや支援ができています」の項目で肯定的な回答80%以上を目指す。

◇「学力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等
今年度の研究の概要について、4月の校内研究全体会で共通理解を図るとともに、「学びを支え合う集団づくり」、「～たくなる単元づくり・授業づくり」、「4つの対話(子どもどうし、教材と、子どもと教師、自己内対話)により学びの変容を自覚できる授業づくり」という研究の3つの視点を確認する。5月の校内研究全体会では、各学年部で児童の「強み」と「弱み」を分析し、めざす子どもの姿を明らかにする。さらに、研究の3つの視点にもとづいた共通実践を設定し取り組んでいく。7月に教職員・児童を対象にアンケートを行い、アンケート結果から課題を共有して、9月以降の実践に活かしていく。9月以降は、研究授業、授業研究会を中心に、「4つの対話により学びを広げたり、深めたりする子ども」の姿(とくに、今年度は学びを深める姿)を追い求めていく。
また、基礎学力の向上については、5月の学力向上・ICT部会において、『家庭学習の手引き』とAIドリルの効果的な活用の仕方について協議し、共通実践事項を全教職員で共有できるようにする。さらに、「各学年の一点突破」を設定し、各学年の子どもの実態に応じた取組を続けていく。そして、長期休業中の部会で、これまでの取組の成果と課題を共有し、9月以降の取組につなげていく。